

要援護者への協力

避難時には、相互の協力が必要です。
近所の高齢者等には声をかけてください。

目の不自由な人



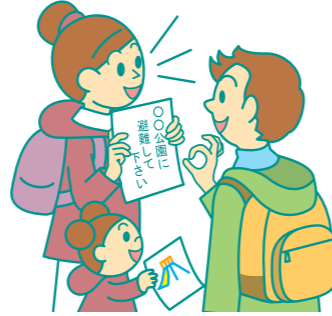
まず「お手伝いしましょうか」などと、声をかけましょう。
話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で。
誘導するときは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかして、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。

高齢者・病人・けが人



複数の人で対応しましょう。
急を要するときは、ひもなどを使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。

耳の不自由な人



話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。
口頭で分からないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに指先で字を書いて筆談しましょう。

肢体の不自由な人



それぞれの人に適した誘導方法を確認しておきましょう。
車椅子の場合は、階段では必ず3人で協力し、上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。

地理に不安な人・日本語が不自由な人



転入したばかりの人など地理に不安な人には、声をかけて避難場所まで一緒に行くようにしましょう。
特に、日本語が不自由な方に対しては、身振り手振りや筆談などを交えてできるだけ状況を理解してもらうよう努めましょう。

避難所での過ごし方

避難所では、大勢の方で共同生活をしていただくこととなります。
被害の状況によっては、避難所での生活が長期に渡る場合もありますので、ルールを守り、お互い助け合って生活するように心がけましょう。

勝手な行動は控えましょう



避難所から出る際には、必ず係員等に伝えるようにしてください。

ルールを守りましょう



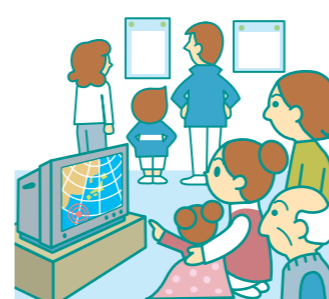
避難所内では、係員等の指示に従ってください。

配布される物



避難所では非常食、飲料水、毛布等が配布されます。
その他、各自で用意した非常持出品を持参しましょう。

情報を待ちましょう



洪水の状況に関する情報が、ラジオ、テレビ、市からの掲示板、FAXなどにより伝達されますので、落ち着いて情報を待ちましょう。

家族の安否を確認しましょう



「災害用伝言ダイヤル」や、携帯電話の「災害時伝言板」などを用いて、家族の安否を確認しましょう。

災害用伝言ダイヤル 171

「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
提供開始や録音件数等、提供情報についてはNTT東日本で決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせいたします。

伝言録音

1 7 1 ▶ 1 ▶ (XXX) XXX - XXXXX ▶ 伝言を入れる (30秒以内)

ガイダンスが流れます

自宅等の番号

被災地の方は自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルしてください。

伝言再生

1 7 1 ▶ 2 ▶ (XXX) XXX - XXXXX ▶ 伝言を聞く

ガイダンスが流れます

自宅等の番号

被災地の方は自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルしてください。

※ 録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての人が聞くことができます。

災害時伝言板

大規模な災害が発生した場合、各携帯電話会社のトップメニューに「災害時伝言板」が追加され、自らの安否やコメントを登録することができます。
登録された伝言は、インターネットや他社の携帯・PHSからも右記のURLで参照出来ます。
また、山梨県ホームページからも「災害時伝言板」が利用出来るようになります。

- NTTドコモ
<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au by KDDI
<http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- Softbank
<http://dengon.softbank.ne.jp/>
- Willcom
<http://dengon.willcom-inc.com>

山梨県ホームページ
http://www.pref.yamanashi.jp/cgi-bin/multi_bbs.cgi?bbsid=13